2018 年 8 月 3 日「奥浅草だより」第 9 号

「吉原遊郭全景」

1911年(明治44年)に全焼する前の吉原遊郭の全景を撮った写真が朝日新聞デジタル版に掲載されました。浅草の１２階建て、高さ５０メートル超の眺望塔「凌雲閣(りょうううんかく)」の展望台から当時の写真家であり凌雲閣の社長も務めた江崎礼二が撮影したと思われるものです。吉原大門（おおもん）等のスナップショットは見たことがありましたが全景を見るのは初めてでした。旧大名屋敷や田畑の彼方に３万坪の広大な吉原の遊廓街が蜃気楼のように浮かんでみえます。

かえって、不鮮明な画像が江戸時代には一万人余りの人々が居住し外界から隔絶された巨大な不夜城の姿を空想させます。写真の左隅に大きなひときわ目立つ洋館が写っています。現在の台東病院の場所にあり、梅毒の検査（検微(けんばい)）、性病専門の吉原病院です。吉原病院は１９１１年（明治４４年）２月１日に設立された警視庁病院の一つでした。吉原が消滅した大火は同年４月９日。従って掲載された写真は、吉原炎上の直前に撮られたものと思われます。吉原病院は焼失を免れ、負傷者の受け入れ場所となりました。また、吉原病院はのちの東京大空襲の時も焼けずに負傷者の治療や子供たちの避難場所になったという地域住民にとって大切な役割を果たしてきました。

吉原の現代までの４００年の歴史の極一端をとらえたセピア色に変色した写真が視覚を通して吉原遊郭全体のイメージやその中のストーリーを伝えてくれました。

参照：『朝日新聞 DIGITAL 2018.7.26』「遊郭あった吉原、街全景の写真発見、全焼前の明治に撮影」

～・～

この「奥浅草だより」は、『奥浅草　地図から消えた吉原と山谷』の発行後、話題を拾って不定期に発行しております。

サノックスのホームページからもご覧いただけます。http://www.sanox.co.jp

佐野陽子・江原晴郎・森下恒子